

修身初訓 五

72
387

館			
函			
架			
號			
一	〇	五	一
冊	號	架	函

館籍書會育教本日大

K

宮本茂任先生
合著
宗盛年先生

版
有
所
權

修身初訓

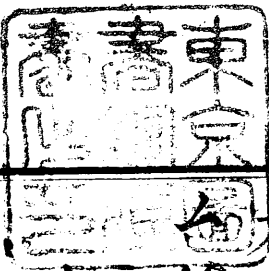
明治十五年
五月刻成
連璧社藏

修身初訓卷之五

緒言

是第四年前期ニ學フ所ニシテ中等
生徒修身ノ初途トス凡ソ六章學問
トシ勉強トシ忍耐トシ交際トシ敬
老トシ處事トス是ニ至リ諸科皆進
修身ノ業豈獨後レテ可ナランヤ

編者誌



修身初訓
卷之五
連璧社藏

修身初訓卷之五

官本茂任編輯
宗盛年校閱

第一章

○孟子曰久人ノ道アルヤ、食ニ飽キ、衣ヲ暖ニシ、居ヲ逸シテ、而テ教ナケレハ、則禽獸ニ近シ、聖人之ヲ憂フル丁アリテ、契ヲシテ司徒ト爲ラシメ、教フルニ人倫ヲ以テス、父子親アリ、君臣義アリ、夫婦別アリ、長幼序アリ、朋友親アリ、

具原益軒曰、久天地之間、道一ノミ、其一ヲ學
フ者ハ學術ノ正キ也、其一ヲ學ハズシテ、其異ヲ
學フ者ハ、學術ノ正ラサル也、譬ヘハ道路ヲ行ク
者、其趨キ向フ所既ニ正シテ、而後終日行キテ、以
テ家ニ至ル可シ、其學フ所既ニ正シテ、而後終身
孜孜メテ、功ヲ成ス可シ、苟、趨キ向フコト、正ラザ
レハ、則其學フ所勤苦スト、雖、徒ニ精カヲ費シテ、
益ナク害アル事ト爲ルノミ、

○學問ノ要ニアリ、道ヲ明ラカニスルト事ニ達
スルトナリ、道ヲ明ニスルニハ、經學ヲスベシ、是

レ學問ノ本也、事ニ達スルニハ、史學ヲスベシ、是
レ學問ノ末ナリ、經學ノミニテ史ニ通セサレハ、
古今ニ暗クシテ用ニ達セズ、經學ナク史學ニ偏
ナレハ、道理ニ昏シ、文武訓

○學ノ知ル所施テ達セサルナシ、世人但能之
ヲ言テ、行フコト能ハズ、武人俗吏ノ共ニ嗤詆ス
ル所以、良ニ是ニ由ルノミ、又數十卷ノ書ヲ讀ム
コトアレハ、便自高大ニシ、長者ヲ凌忽シ、同列ヲ
輕慢ス、人之ヲ疾ムコト、讎敵ノ如ク、之ヲ惡ムコ
ト、鵠鼻ノ如シ、此ノ如キハ、學ヲ以テ益ヲ求メ、今

反テ自損ス、學フコトナキニ加カズ、顏子家訓

○講學人、人ニ益アルヤ、食ノ飢ヲ遏メ、藥ノ病ヲ療ヤスカ如シ、是レ必然ノ理ナリ、然レ氏食ノ時ニ適ハズ、藥ノ病ニ中ラサルハ、皆能人ヲ害ス、世ノ人、學ヲ爲テ已ノ爲ニセス、書ヲ讀ムニ由テ、其矜侮ヲ長シ、其性質ヲ害フ者、徃々コレ有リ、衆人之ヲ見テ、學問益ナクシテ損アリト謂フ、是レ古人謂フ所、噎ニ因テ食ヲ廢ル者ナリ、豈ニ謬ラガラシヤ、初學知要

○吾輩學ヲ爲ル、先其入學ノ初心何如ク、自問フ

ベシ、其心必學テ君子ト爲ント欲スル乎、然ラサル乎、此ニ於テ趣向一タヒ錯レハ、日ニ此學ニ從事スト、雖終身得ル所ナシ、適ニ以テ傲ヲ長シ、非ヲ遂ル資ト爲ルニ足ル、蓋其心果シテ君子ト爲ント欲シテ、志願緊切、絶テ他念ナケレハ、則學ヲ爲ル本立ツ、斯ニ以テ入學スベシ、言志後錄

○熊澤蕃山、笈ヲ負ヒ遊學セントシ、良師ヲ尋子京ニ赴ク、同宿ノ者語リテ曰ク、徃日余主人ノ金二百兩ヲ齎シ、驛馬ニ跨リ、金ヲ鞍ニ繫キ、日暮忘レテ宿シ、半夜之ヲ覺リ、之ヲ求ルニ術ナク、既ニ

一死ヲ決ス時ニ戸ヲ叩ク聲アリ之ヲ問ヘハ馬夫ナリ即金ヲ出シテ曰ク是レ君ノ遺ス所ナリ封緘故ノ如シ吾驚喜シ腰纏ノ十六兩ヲ出シ報謝スレト受ケズ之レヲ強レハ曰ク君ノ物ヲ君ニ還ス奚ソ謝スル丁アラシ然レト夜ヲ冒シ來ル此債二百錢ヲ得レハ足レリト予其欲ニ淡キヲ恠ミ其故ヲ問ヘハ曰ク我郷ニ中江與右衛門ト云フ人アリ我輩ノ爲ニ誠正ノ道ヲ説ク今君ノ賜ヲ受ケハ自欺クナリト言テ去レリ蕃山同宿ノ語ヲ聞キ往テ之ニ謁シ強テ其門ニ入り弟

子トナレリ中江與右衛門ハ實ニ藤樹先生ナリ○子夏曰ク賢ヲ賢トシテ色ニ易ヘ父母ニ事ヘテ能其心ヲ竭シ君ニ事ヘテ能其身ヲ致シ朋友ト交リ言テ而テ信アラハ未學ヒスト曰フト雖吾必之ヲ學ヒタリト謂ン

○公明宣ハ曾子ノ門人ナリ專ラカヲ實學ニ用井曾テ曰ク宣夫子ノ庭ニ居ルヲ見ル親在セハ叱咤ノ聲未嘗テ犬馬ニ至ラス宣之ヲ悦ヒ學ヘト未能ハス宣夫子ノ賓客ニ應セルヲ見ル恭儉ニシテ懈惰セズ宣之ヲ悦ヒ學ヘト未能ハス宣

夫子ノ朝廷ニ居ルヲ見ル嚴ニシテ下ニ臨ミ、毀傷セズ、宣之ヲ悦ビ、學ヘレ未能ハズ、宣此ノ三ツノ者ヲ悦ビ、學ヘレ未能ハズト、陳選曰ク、論語ニ謂フ所行テ餘カアレハ、則以テ文ヲ學フ意ナリ

第二章

○孔子曰ク、君子食飽シテヲ求ルコトナク、居安ラシクヲ求ルコトナク、事ニ敏クシテ而テ言ニ慎ミ、有道ニ就テ而テ正ス、學ヲ好ムト云フヘキノミ、○今ノ學者誰カ學ヲ爲ガラン、只是之ヲ學ニ志スト云フ可ラス、果シテ能學ニ志セハ、則自任リ

得ズ志ノ字最カアリ、饑渴ノ飲食ニ於ルカ、如キヲ要ス、總ニ悠々スルコトアレハ、便是志立サルナリ、朱晦菴

○人ノ禽獸ニ異ル所以ノ者ハ、其爲ルコトアルヲ以テノミ、皮毛齒角禽獸用ヲ以テ名アリ、香味補瀉艸木功ヲ以テ著ハル、人ノ生ルヤ、徳以テ俗ニ表タルコトナク、功以テ物ニ及フナクシハ、禽獸艸木ニ之レ若カサルナリ、哀イカナ、陳眉公見于初學知要
○物ニ格ルモ亦一端ニ非ス、或ハ書ヲ讀テ義理ヲ講明シ、或ハ古人ノ人物ヲ論シテ、其是非ヲ別

夫或ハ事物ニ應接シテ、其當否ヲ處スルカ如キ、皆理ヲ窮ルナリ、程氏全上

○書ヲ讀ム丁少ケレハ、則考ヘ校ヘテ義ノ精ヲ得ルニ由ナシ、蓋書ハ此心ヲ維持ス、一時放下スレハ、一時徳性懈ル丁アリ、書ヲ讀メハ、此心常ニ在リ、書ヲ讀カレハ、則終ニ義理ヲ看得ズ、張橫渠全上
○知ト行ト並ヒ到ルヲ須著ス、之ヲ知ル丁愈明ナレハ、則之ヲ行フ丁愈篤シ、之ヲ行フ丁愈篤ケレハ、則之ヲ知ル丁愈明ナリ、二ノ者偏廢ス可ラサル丁人ノ兩足相先後シテ行クカ如シ、若シ一

邊軟了スレハ、便一步モマ夕進得ズ、程氏全上

○安積良齋曰ク、朱子ノ方事成ラザル、吾志ヲ責ムベシト云フハ、確言ナリ、志ハ万事ノ基本ナリ、志立ツトキハ、精神純一ニテ、天地ヲ動シ鬼神ヲ感シ、金石ヲ貫クベシ、朱子文陽氣發スル處、金石亦透ル、精神一夕ヒ到ル、何事カ成ラザラント云フハ、尤名言ナリ、志ハ一身ノ大將ニテ、志誠ニ立ツ寸ハ、耳目口鼻ノ私欲ハ、退聽スルナリ、

○月形鶴窠ハ、筑前ノ人ナリ、十二歳ニシテ、大和俗訓ヲ讀ミ、人ト生レテ學ハザレハ、生レザルニ

同シ、學ヒテ行ハカレハ學ハサルニ等シトノ語
ヲ感シテ學ニ志セリ、其身羸弱多病ナレハ、人或
ハ其成立ヲ危ム、其師ヲ真藤蛾眉ト云フ、蛾眉通
鑑綱目ヲ讀ント欲シテ、近傍其書ヲ藏スル者ナ
シ、太宰府神庫本ヲ借リテ之ヲ讀ム、掌ル者一冊
ヲ限リ之ヲ借ス、蛾眉隔日ニ四里餘程ヲ往來シ、
途上モ亦之ヲ讀ム、其勉強是ノ如クシテ、八十二
ニシテ没ス、鶴窠師ノ是ノ如キヲ見、苦學ノ生ヲ
害セサルヲ信シ、祁寒暑雨勉強シテ止マズ、或ハ
病牀ニ在リテ、親ヲ湯藥ヲ煎シ、傍ラ手ニ卷ヲ釋

テズ、學已ニ成リ、藩學師ニ任シ、昇リテ藩主ニ伴
讀シ、輔導カヲ竭シ、優待ヲ蒙リ、八十六ニシテ終
ル、致仕ノ後山園雜興ヲ著ス、一韻百疊ノ長律ニ
シテ、雷同アルトナシ、其老健知ルベシ、賢子孫多
シ、長子漪嵐博學多識、家聲ヲ墜サス、官幕騷擾ノ
際、其子姪ト正義ヲ唱フ、蓋鶴窠ノ遺意ヲ奉スル
ナリ、

○此學吾輩一生ノ負擔、斃テ而後已ムベシ、道固
ヨリ窮リテシ、堯舜ノ上善盡ルトナシ、孔子志學
ヨリ、七十二至ルマテ十年コトニ自其進ム所ア

ルヲ覺エ、孜々トシテ自彊クシテ、老ノ將ニ至ン
トスルヲ知ラス、若其ヲシテ九十ヲ踰エ、百歳ニ
至ラシメハ、則其神明不測、想フニ何如ナラン、凡
ソ孔子ヲ學フ者、宜ク孔子ノ志ヲ以テ志トスベ
シ、言志後録

○宋司馬君實成童ヨリ、凜然トシテ成人ノ如シ、
七歳左氏春秋ヲ講スルヲ聞キ、大ニ之ヲ愛シ、退
テ家人ノ爲ニ講ス、即其大義ヲ了レリ、是ヨリ手
書ヲ叙サス、飢渴寒暑ヲ知ラサルニ至ル、年十五、
書通セサル所ナシ、文詞諄深、西漢ノ風アリ、初ノ

幼キ時記誦人ニ如カサルヲ患ヘ、群居講習スル
ニ、衆兄弟既ニ誦ヲ成シ遊息ス、君實獨帷ヲ下シ、
編ヲ絶チ能背誦スルニ迫テ乃止ム、カヲ用井ル
丁多キ者ハ功ヲ收ル丁遠シ其精誦スル所乃終
身忘レズ、君實嘗テ曰ク、書誦ヲ成サハル可ラス、
或ハ馬上ニ在リ、或ハ中夜寐子サル時、其文ヲ詠
シ其義ヲ思ヘハ、得ル所多シ、君實宰相トナリ、其
業大ニ人心ヲ服シ、資治通鑑ノ大著作大ニ學者
ニ功アリト云フ、

第三章

○孟子曰ク、舜ハ畎畝ノ中ヨリ發リ、傳説ハ版築ノ間ヨリ起リ、膠鬲ハ魚鹽ノ中ヨリ舉リ、管夷吾ハ士ヨリ舉リ、孫叔敖ハ海ヨリ舉リ、百里奚ハ市ヨリ舉ル。故ニ天マサニ大任ヲ是人ニ降ントスルヤ、必先ツ其心志ヲ苦シメ、其筋骨ヲ勞シ、其體膚ヲ餓シ、其身ヲ空乏シ、行フテ其スル所ニ拂亂スルハ、心ヲ動シ、性ヲ忍ハセ、其能ハサル所ヲ増益スル所以ナリ、

○朱元晦曰ク、其仁義禮智ノ心ヲ動シ、其聲色臭味ノ性ヲ忍フ、向ニ李先生ヲ見ルニ、説ク若シ大匠掃遣シ去ラサレハ、只古人遭フ所患大ニ堪フ可ラサル者ヲ思ヒ、持シテ以テ自比ヘハ、則少ク安ス可シト、始甚其説ヲ卑トシ、以爲ラク何ソ此ノ如キニ至ント、後來事ニ臨ミ、卻テ得カノ處アルヲ覺ユ、忽ニス可ラス、

○古ノ大事ヲ立ル者、唯超世ノ才アルムミナラズ、亦必堅忍不拔ノ志アリ、禹ノ水ヲ治ル、蓋シ亦潰冒衝突畏ル可キ患アラシ、唯能其當然ナルヲ前知シ、事至リテ懼レズ、徐口ニ之カ所ヲ爲ス、是ヲ以テ志ヲ成功ニ得タリト、蘇軾晁錯論

○人心多ク宴安ニ蔽ハル、惟窮スレハ則思フ、思
ヘハ則良心竦然トシテ動ク、人性多ク逸豫ニ縱
ナリ、惟困スレハ則憂フ、憂レハ則情欲淡然トシ
テ忍フ、是ノ如ク人情ニ磨練シ、世故ヲ閱歴スレ
ハ、則聞見倍廣ク、知慧倍生リ、才能其日ニ益スヲ
覺エス、此レ皆窮困ニ由テ之ヲ得、是困厄ニ居リ
逆境ニ居ル益ナリ、初學知要

○覺悟アル者ハ事變ニ臨テ驚カス、覺悟ナキ者
ハ狼狽シテ度ヲ失フナリ、一點ノ火モ、意外ニ手
ニ當レハ、驚テ色ヲ變ス、大ナル灸モ、覺悟シテ炷

スレハ驚クコトナシ、古人ノ書ヲ讀ミ、人物ノ邪正
得失ヲ辨シ、治亂興廢ノ迹ヲ觀ルハ、皆我覺悟ス
ル工夫ナリ、道ニ古今ナク、理ニ内外ナシ、事迹ハ
同カラザレド、道理ハ一ニ歸スルナリ、良齋閑語
○池田勝入齋、爐中ニテ栗實ヲ煨キシニ、幼兒其
側ニ侍レリ、勝入齋曰ク、汝此栗實ヲ嗜メル歟、幼
兒曰ク、然リ嗜メリ、勝入齋火箸ヲ以テ、火中ノ栗
實ヲ取り與フレハ、幼兒纖々タル手ニ之ヲ受ケ、
戴キテ後之ヲ食フ、顔色變セズ、未嘗テ熱ヲ執ラ
ハルカ如シ、勝入齋曰ク、此兒必非凡ノ者トナラ

シ幼兒ハ即輝政ナリ、果シテ英雄ノ人トナレリ、
○菽生祖徠本姓ハ物部、其父罪ニ坐シ、上総ニ流
ス、祖徠甫テ十四、父ニ從テ、（一）一貧窮ニ墮ル
了ナク、唯大學諺解ヲ讀ミ、（二）一研究シ、師ノ
講說ニ頼ラス、群書ニ通スルヲ得、赦ニ逢フテ江
戸ニ還リ、芝街ニ居ル、貧居洗フカ如シ、舌耕ノカ
殆ト衣食ヲ給セス、増上寺前ニ豆腐店アリ、祖徠
ノ貧ニシテ、篤志アルヲ憐ミ、日コトニ雪華菜ヲ
饋ル、後日祖徠仕官シテ、厚禄ヲ受ルニ及テ、月ニ
米三斗ヲ贈テ、以テ舊恩ヲ報ス、祖徠居常書ヲ讀

ミ暮ニ向ヘハ、簷際ニ出テ、夕日ノ殘照ヲ以テ讀
ミ、簷際モ亦字ヲ辨ス可ラサルニ及テハ、則齋中
ニ入り、燈火ヲ點シ、深夜ニ至ルマテ、手ニ卷ヲ釋
テズ、能貧苦艱難ニ耐ヘタルヲ以テ、終ニ博識ヲ
極メ、文章一家ノ生面ヲ開キ、海内ノ學士ヲ風動
セリ、

○山水ノ遊觀スベキモノハ、必是疊嶂攢峰ナリ、
激流急湍ナリ、凡ソ其紫翠蒙密ニシ、雲烟變態アリ
テ、遠近相應シ、險易相錯ル、然後幽致アリテ、賞
スルニ耐ヘタリ、若唯一山一水アルノミナラハ、

則何ノ奇趣コレ有シ、人世モ亦是ノ如シ言志後錄

○晋獻公、驪姫ノ讒ヲ以テ太子申生ヲ殺ス、公子重耳弟夷吾ト皆走り、重耳狄ニ行キ、居ルノ十二年、齊ニ行ントシテ、衛ヲ過クル時、食ヲ野人ニ乞フ、野人塊ヲ與フ、重耳怒リ之ヲ鞭ント欲ス、子犯曰ク、天ノ賜ナリト、重耳稽首シ、受テ之ヲ載ス、齊ニ居リ、又去テ曹ニ及フ、曹侯重耳ノ駢脅ナルヲ聞キ、浴スル時薄リテ之ヲ觀ル、曹ヨリ宋ニ及ヒ、宋ヨリ鄭ニ及フ、鄭侯亦禮セス、鄭ヨリ楚ニ及ス、楚子玉之ヲ殺ントス、楚子重耳ノ大度ヲ感シ、秦

ニ送ル、秦侯女ヲ納ル、女盥ニ沃ク、重耳盥テ之ヲ揮フ、女怒ル、重耳懼レ降服シテ囚ハル、重耳道路ニ奔走シ、險阻艱難備ニ之ヲ嘗メ、既ニ國ニ入り、立テ君トナリ、國ヲ富マシ、民ヲ教ヘ、城僕ニ一戰シテ終ニ天下ニ霸タリ、

第四章

○孟子曰ク、仁者ハ人ヲ愛ス、禮アル者ハ人ヲ敬ス、人ヲ愛スル者ハ人恒ニ之ヲ愛ス、人ヲ敬スル者ハ人恒ニ之ヲ敬ス、此ニ人アリ、其我ヲ待ツニ、横逆ヲ以テスレハ、則君子必自反シ、我必仁ナラ

ジ、我必禮ヲケン、此物奚宜ク至ルベシヤト、其自
反シテ仁ナリ、自反シテ禮アリ、其横逆是ノ如シ、
君子必自反ス、我必忠ナラジト、

○薛文清曰ク、郷人ニ處スル、皆敬シテ而テ之ヲ
愛スベシ、三尺ノ童トイヘ、亦誠心ヲ以テ之ヲ
愛スベクシテ、侮慢ス可ラズト、

○親キヲ愛シ、貴キヲ敬スルハ、言フヲ待ズ、路人
ノ踈キモ、乞丐ノ賤キモ、皆是天地ノ生メル人ナ
リ、分ニ隨ヒ愛敬スベシ、憎ミ侮ル可ラス、親踈ニ
ヨリ、貴賤ニ隨ヒ、愛敬スルニ厚薄アリト雖、愛敬

セザル所ナカルベシ、大和俗訓

○人ニ交ルニ、常ニ禮義ヲ正クスベシ、禮義ノ始
ハ、先威儀ヲ整フベシ、威儀ハ身ノ形儀ヲ云フ、衣
服ヲ正クシ、顔色ヲ齊ヘ、形ヲ嚴ニシ、言ヲ順ニス
ルヲ云フ、殊ニ言氣ヲ慎ミ、無禮ナル可ラス、言ノ
鄙ナルハ、下部ノ交ナリ、言語容貌ハ、中心ノ外ニ
見ユル符ナリ、之ヲ見聞テ中心ノ善惡ヲ知ル可
ケレハ、慎ムベシ、然レ臣言ノ恭ニ過ルモ、禮ニ非
ス、諛ル也、過不及ナカルヘシ、同上

○凡ソ愛敬ヲ行フニハ、信ヲ本トスベシ、信トハ

愛敬ヲ行フニ、其心眞實ニシテ僞ナキナリ、信ナケレハ、愛敬モ眞ノ愛敬ニ非、信ハ人ニ交ル道ナリ、信ナケレハ、人ト我トノ心感通セズ、貌ニ何等愛敬ヲ顯ストモ、信ナケレハ、人マコト、セズシテ、愛敬ノ道行ハレズ、同上

○詩ニ曰ク、百ノ爾君子、德行ヲ知ラザランヤ、杖ハス求ラスンハ、何ヲ以テ藏ラザラント、此詩ハ、婦人其夫役ニ行キタルヲ思ヒテ作レリ、羈旅ハ艱難ニテ、意外ノ事モアレハ、平生ノ名節ヲ損セカレ、百ノ君子ノ知ル所言フニ及ハスト雖、人ハ

只人ヲソ子ミ憎マズ、人ニ貪リ求メズ、己ヲ守ラハ、何地ニ在リトモ、何ノ藏ラザラントカ有ント云フ、人我アレハ必人ヲ杖フ、利害アレハ必人ニ求ル、破臺雜話

○陸宣公曰ク、寧人我ニ負クトモ、我人ニ負クト勿スト、固ニ確言タリ、余モ亦謂フ、人我ニ負ク時、我當ニ吾負カレシ所以ヲ思ヒ、以テ自反シ、且以テ切磋砥礪之地ト爲ベシ、我ニ於テ多少益アリ、焉ノ之ヲ仇トシ視ルベケンヤ、言志後錄

○杉山余菴ハ肥後ノ人也、三宅有任ト友トシ善

有任早夕死シテ、子有春尚幼シ、會加藤氏國除カ
 レ、余菴筑前ニ禄セラレ、江戸藩邸ニ官シ、積勞アリテ加禄ノ命アリ、余菴固辞スレ、氏允サレズ、余菴因テ乞テ曰ク、臣肥後ニ在ル時友アリ、三宅有任ト云フ、臣此入ト相約ス、後死ノ者必相爲ニ、子孫ヲ扶持セン、今有任ノ遺孤有春流落シテ近江ニ在リ、願クハ臣ニ賜フ所ノ禄ヲ以テ、有春ニ禄セラレハ、則臣カ榮モ、自賜ヲ受ルニ百倍ス、藩主之ヲ許ス、余菴大ニ喜ビ、人ヲ馳セ有春ヲ迎ヘ之ヲ撫字ス、時ニ有春十四歳、禄五百石ヲ受ク

○佐藤一齋曰ク、故舊遺レサルハ、是美德ニシテ即人情ナリ、余家小園、他ノ雜草ナク、唯石榴紫薇木犀三樹アルノミ、然シテ此樹植テ四十餘年、朝夕相對シ、主人ト偕ニ老ユ、是老友ナリ、余性艸木ニ於テ嗜好較淡ナリ、然レモ此三樹眷愛特ニ厚シ、故舊遺レサル情、此ト一般、

○齊ノ鮑叔管仲ト交ルニ信義アリ、嘗テ共ニ賈シテ利ヲ分ツニ、管仲多ク自ラ與フレ、氏、鮑叔以テ貪レリト爲ズ、仲ノ貪ナルヲ知レハ也、嘗テ共ニ事ヲ謀リテ窮セリ、鮑叔以テ愚ナリトセズ、時

ニ利不利アルヲ知レバ也。管仲嘗テ三夕ヒ戰ヒ三夕ヒ北ケタリ、鮑叔以テ怯シト云ハス、仲カ老母アルヲ知レハナリ、嘗テ囚トナリ辱メヲ受ケタリ、鮑叔以テ耻ナシトセズ、仲カ小節ヲ愧チズ、大功ノ顯レサルヲ憂ルヲ知レハナリ、鮑叔管仲ヲ薦メテ、管仲齊ノ相トナリ、仲又鮑叔ノ恩ヲ忘レズ、嘗曰ク、我ヲ生ム者ハ父母、我ヲ知ル者ハ鮑子也。

第五章

○曲禮ニ曰ク、年長スルヲ以テ倍スレハ、則父ト

シ之ニ事フ、十年以テ長スレハ、則兄トシ之ニ事フ、五年以テ長スレハ、則之ニ肩隨ス、

○又曰ク、長者ニ謀ルニハ、必凡杖ヲ操テ以テ之ニ從フ、長者問フニ、辭讓セズシテ對フルハ、禮ニ非ルナリ、

○又曰ク、先生ニ從テハ、路ヲ越エテ人ト言ハズ、先生ニ道ニ遭ヘハ、趨テ進ミ、正ク立テ手ヲ拱ス、先生之ト言ヘハ、則對フ、之ト言ハサレハ、則趨テ退ク、長者ニ從テ丘陵ニ上レハ、則必長者ノ視ル所ニ郷ス、

○王制ニ曰ク、父ノ齒ニハ隨ヒ行キ、兄ノ齒ニハ
鴈行シ、朋友ニハ相踰エス、輕任ハ拜セ、重任ハ分
ツ、頌白ノ者ハ提挈セズ、君子ノ耆老ハ徒行セズ、
庶人ノ耆老ハ徒食セズ、

○藤原良繩人ト爲リ、寛裕孝謹ナリ、貞觀ノ初、左
大辨トナレリ、時ニ南淵年名右大辨タリ、大江音
人左中辨タリ、其班皆良繩ノ下ニ在リ、良繩私語
シテ曰ク、二人皆碩儒耆老、吾齒二人ヨリ少クシ
テ、職ハ其上ニ在リ、出入進退常ニ顔ニ汗スルコ
アリト、遂ニ病篤シト稱シ、肯テ事ヲ視ズ、二人皆

職ヲ進メテ、而シテ後良繩職ニ就ク、心ヲ盡シ上
ニ事ヘ、未嘗テ過失アラズ、又後母ニ事ヘ、孝ヲ以
テ聞ユ、時人忠孝ヲ以テ稱セリ、

○故事ヲ知ル老人ノ語、好テ之ヲ聽キ、厭フ可ラ
ス、能故事ヲ聽テ厭ハズ、志アル者ハ、後ニ必人ニ
勝ル、老人ヲ憚リ、故事ヲ聽クコトヲ忌ミ、其席ニ勝
ヘズ、或ハ竊ニ之ヲ誹リ笑フ、是レ凡俗ノ心也、是
ノ如キ者、後必人ニ及フコト能ハズ、古人ノ謂フ所
ノ下士ハ、道ヲ聞テ、大ニ笑フ是也、童子訓

○蒲生氏郷幼キトキ、佐々木氏ヨリ織田右府ノ

所ニ質タリ、右府ノ座ニテ、老人ノ軍事ヲ語ルト
キハ、耳ヲ傾ケテ之ヲ聽ク、人之ヲ見テ曰ク、此童
凡人ニ非ス、後必名士ト爲ント、長スルニ及テ、果
シテ英雄トナル、

○漢、張良其先ハ韓人ナリ、漢王ニ事ヘ、留侯ニ封
セラレ、良嘗テ下邳ノ圯上ニ遊ヒシトキ、褐衣ノ
老人來リ、履ヲ圯下ニ墜シ曰ク、汝下リテ履ヲ取
リ來レト、良其無禮ヲ愠リ之ヲ歐ント欲ス、其老
タルヲ憐ミ、愠リヲ忍ビテ履ヲ取り、跪キテ進ム、
老人足ニテ之ヲ受ケ、笑テ去リ、復還リ來テ云ク、

豎子教フベシ、五日ノ後、平明此所ニ來テ我ヲ待
ツヘシト、良之ヲ諾シ、期ニ至リテ往ケハ、老人既
ニ在リ、怒リテ曰ク、老人ト約シテ、後レ來ルハ何
故ソ、五日ノ後又來ルベシト、良期ニ至リ、味爽其
所ニ至ル、老人又先ニ在リ、怒リテ曰ク、去レ、五日
ノ後蚤ク來レト、期ニ及ヒ、良夜半ヲ以テ往ク、頃
アリテ、老人來リ喜ヒテ曰ク、當ニ此ノ如クナル
ヘシト、乃一編ノ書ヲ出シ曰ク、汝之ヲ讀マハ、王
者ノ師トナルベシト、遂ニ去レリ、良還リテ之ヲ
視レハ、太公望ノ兵法也、大ニ喜ヒ、常ニ之ヲ誦習

シ、漢王ニ從フニ及ンテ、左右ニ在リテ、籌策ヲ帷
幄ノ中ニ運ラシ、勝ヲ千里ノ外ニ決シ、功ヲ以テ
侯ニ封セラレ、漢ノ三傑ニ列セリ、

第六章

○薰仲舒曰ク、仁人ハ其誼ヲ正クシテ、其利ヲ謀
ラズ、其道ヲ明ニシテ、其功ヲ計ラズ、朱元晦曰ク、
義ヲ正クスレハ、未嘗テ利ナラスンハ、アラス、道
ヲ明ニスレハ、豈必モ功ナカラシヤ、但功利ヲ以
テ心トセザル耳、

○司馬子微、坐忘論ニ曰ク、其巧ニ未ニ持タンヨ

リ、拙ク初ニ戒ルニ孰若ト、此天下ノ要言ナリ、官
ニ當リ事ニ處スル、法ヲ用井ル、簡ニシテ、而テ
功ヲ見ル、多キ、此言ニ如ク者ナシ、人能之ヲ思
ハ、豈復悔吝アラン耶、呂氏官箴

○宋劉器之始テ科ニ上リ、二同年ト張觀ニ謁シ、
教ヲ請フ、張觀曰ク、某官ヲ守テヨリ、常ニ四字ヲ
持ツ、勤謹和緩、中間一後生、聲ニ應シテ曰、勤謹和
ハ、則命ヲ聞ケリ、緩ノ一字ハ、某未聞カサル所ナ
リ、張觀色ヲ正クシテ曰ク、何ソ嘗テ賢ニ緩ニシ
テ事ニ及ハカルヲ教ヘシ、且道ヘ世間何事カ、忙

キニ因リ錯リ了ラサラン

○小早川隆景深沈ニシテ智謀アリ、豊太閤ト對陣シ、和成ラントシテ、本能寺ノ變告ケ來ル、或ハ太閤ヲ伐ント欲ス、隆景具ニ得失利害ヲ陳シ、約ヲ變セズ、太閤小田原ノ役久シテ城拔ケズ、隆景ヲ招テ之ヲ謀ル、隆景説クニ長圍ノ策ヲ以テシ、終ニ捷ヲ獲タリ、嘗テ事アリテ右筆ニ命シ、書簡ヲ作ラシムルニ、曰ク事急ナリ、緩ニ書セヨ、智略万人ニ秀出シテ、其徐緩以テ事ヲ處スルハ是ノ如シ、

○宋胡文定曰ク事ニ臨テハ、明敏果斷ヲ以テ是非ヲ辨ス、貝原篤信謂フ、之ヲ先スルニ明ヲ以テセガレハ、理ヲ見ルハ明ナラスシテ、事ニ處スルニ迷錯ス、既ニ明ニシテ、之ニ次クニ斷ヲ以セガレハ、則悠々トシテ事ヲ成サズ、是義ヲ見テ爲サル勇ナキナリ、明斷相須テ全善ナランヲ要ス、
○喜ニヨリテ、人ニ物ヲ與ヘ賞ヲ行ヒ、怒ニヨリテ、人ヲ責メ罰ヲ行ヘハ、必理ニ中ラスシテ錯ル、喜怒ノトキ、忍テ事ヲ行フ可ラス、喜モ怒モ、止テ常ノ心ト爲テ後ニ行フベシ、怒ニヨリテ理ヲ枉

ケ是ヲ非トシ、罰ヲ重クスルハ、賄賂ニ耽リテ、理ヲ枉ケ罰ヲ輕クスルカ如シ、大和俗訓

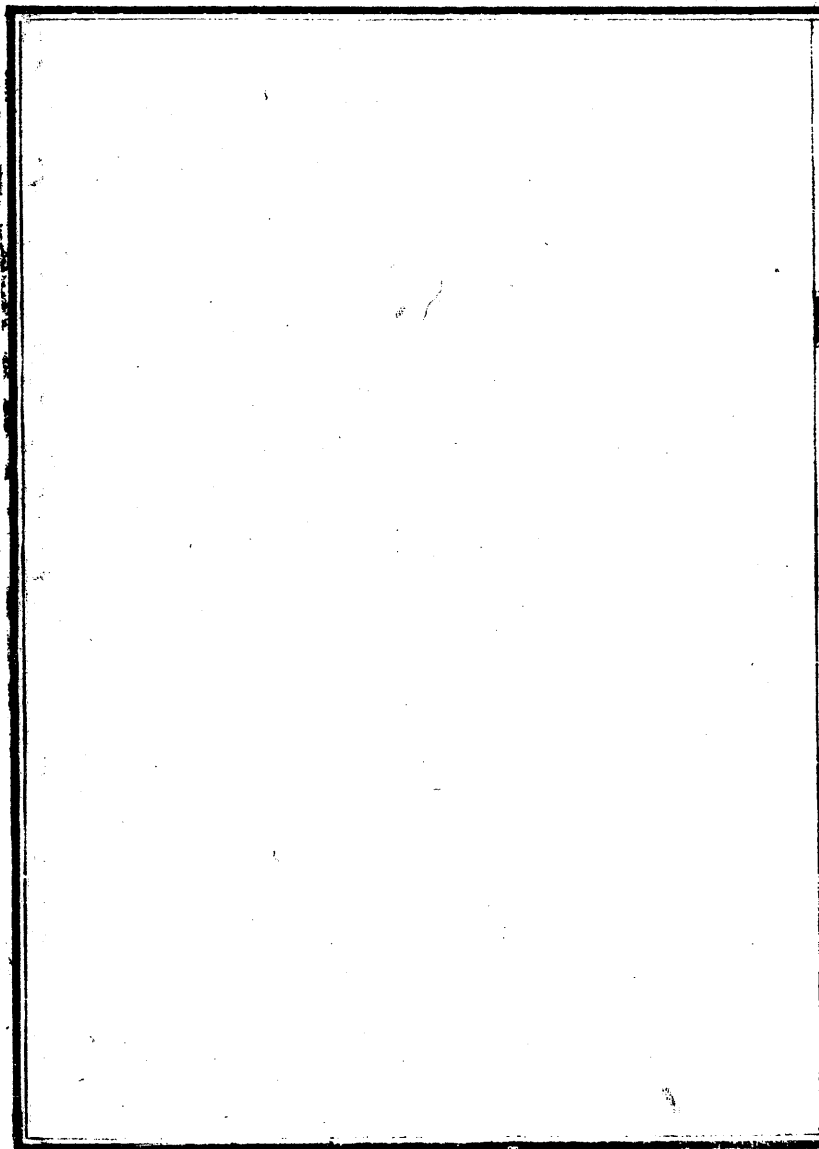
○宋太祖仁孝豁達大度アリ、嘗一日朝ヲ罷キ、便殿ニ坐シテ樂マサル者久シ、左右其故ヲ請フ、上曰ク、爾天子ト爲ルノ容易ナリト謂フヤ、適快ニ乗シ、一事ヲ指揮シテ誤ル、故ニ樂マサル耳、

○唐太宗魏徵ヲ重シ、常ニ其諫争ヲ納ル、徵嘗疾君集ヲ薦メテ、君集罪アリ、太宗始テ徵カ阿黨スルカト疑フ、徵自前後ノ諫辞ヲ録シ、起居郎褚遂良ニ示スト言フ者アリ、太宗愈悦ハス、嘗公主ヲ

以テ徵カ子叔玉ニ許嫁セシヲ停メ、又徵カ爲ニ建ル所ノ碑ヲ踏ス、幾ナクシテ、太宗親高麗ヲ征シテ、戰士死スル者幾ント三千人、戰馬死スルヲ什ニ七八、功ヲ成ス能ハズ、深ク之ヲ悔イ、歎シテ曰ク、魏徵若在ラハ、我ニ此行アラシメジト、命シテ徵ヲ祀ルニ少牢ヲ以テシ、複製スル所ノ碑ヲ立ツ、

修身初訓卷之五終

仙身初言 卷之五 逸聖書樓



明治十五年三月廿四日版權免許
同 年五月刻成

編輯人 福岡縣士族 宮本茂任

同 縣士族 宗盛 年

福岡縣同區地行八幡町
二千五百番地

出版所 連壁書樓 製本會社

福岡縣同區下名島町
十五番地

仙身初言

連壁書樓

定價金六錢

五

明治十五年三月廿四日版權免許
同 年 五 月 刻 成

編輯人

福岡縣士族
宮本茂任
福岡縣福岡區東小姓町
六番地居住

同

宗盛年
同縣同區地行八番町
二千五十番地居住

出版人

福岡縣士族
江藤正澄
福岡縣福岡區簗子町
三十七番地

同

林斧介
同縣同區同町
百三番地

同

月成重三郎
同縣同區本町
六番地

修身初訓 六

185

72
387

館 函 架 號	館 函 架 號			
	館 函 架 號			
	一	五	一	一
	○	冊	號	架

K110.1
199
2